

第47回



MK SEIKO (VIETNAM)

MK SEIKO (VIETNAM)社は、長野県千曲市に本社を置く、エムケー精工株式会社の100%出資ベトナム現地法人として、1995年に設立されました。

MK SEIKO (VIETNAM)では生活家電を中心として様々な製品を製造しており、現在では500種類もの製品の製造・加工を行っています。

今回はそんなMK SEIKO (VIETNAM)社の丸山社長にお話を伺ってきました。



●事業内容

ホームベーカリー、餅つき機、保冷米びつ
パワーリフター、LED表示システムなどの
製造、各種部品加工(板金加工、塗装加工、
樹脂成形、基板実装、一般組立)

●MK SEIKO (VIETNAM) Co.,LTD

14th. Street Tan Thuan Export Processing Zone,
Dist.7 HCM City Vietnam

●日本本社

エムケー精工株式会社

長野県千曲市雨宮1825番地

一進出の経緯についてお聞かせください。

MK SEIKO (VIETNAM)は1995年9月にホーチミン市のタントアン輸出加工区に設立され、今年で、19年目を迎えております。弊社の親会社であります、エムケー精工株式会社は、長野県に本社を置き、門型洗車機、カーマット洗浄器、電動ポンプなどの自動車関連製品の製造、道路情報掲示板や広告看板などに用いられているLED表示システムの設計・製造、餅つき機やホームベーカリーなどの調理家電の製造を行っておりますが、1990年代に入ってから次第に安い中国製の家電製品が日本市場に参入するようになり、価

格競争が激しくなり、将来的に更に中国製品が日本市場に参入してくることが予想され、海外での生産を行わなければ、価格競争に勝てなくなると考え、ベトナムへの進出を決めました。ベトナムを選んだ理由ですが、当初進出先の候補としては、中国とベトナムの2カ国がありましたが、将来性や投資環境など様々な条件を考慮した上で、最終的にベトナムへ進出することになりました。ベトナム進出に際して、現在のタントアン輸出加工区を選んだ理由ですが、このタントアン輸出加工区を運営している会社は台湾系企業でして、台湾の高雄市で工業団地運営の実績があったこと、輸出加工区として税制面の優遇措置があったこと、そして同じ長野県内の既にベトナムに進出していた先輩企業からベトナム進出に関して様々な助言を頂いたことなどを受けて、最終的にこのタントアン輸出加工区への進出が決まりました。

一業務内容についてお聞かせください。

進出当初は、プラスチック製のホースポンプの製造と組み立てを行う小さな工場からのスタートでしたが、その後、徐々に敷

地を拡大しながら、プラスチック成形以外にも板金・プレス加工、基板実装、塗装、組み立てなどを行える体制を整えていきまして、現在では、餅つき機やホームベーカリー、保冷米びつなどの完成品をメインに大小合わせて約500品目の製品を製造・加工しています。

製品の約80%が日本への輸出で、残りの20%は、台湾、北欧、南米などに輸出しています。弊社の強みは、部品加工から組立まで一貫して行えることにあり、今後はこの強みを生かして、自社の製品の製造だけではなく、外部からの依頼に応じて部品の加工や組立にも取り組んでいきたい



成形機



ホームベーカリー
MODEL HBK-100



餅つき機
MODEL RMJ-36TN



保冷米びつ
MODEL HK-21W



基板工場

と考えています。実際既に何社かのお客様から部品加工の引き合いを頂いており、現在商談を進めており、今後は外部からの受注にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また将来的には、弊社の製品をベトナムを含めた東南アジア各国へ販売していきたいと考えています。

一ベトナムで事業を行うにあたって困ったことなどありますか？

最近は少し落ち着いてきましたが、3年前前はワーカーを募集してもなかなか集まらず、苦勞しました。通常の募集では思うように人が集まらず苦肉の策として、自社で製造しているLED掲示板システムを利用した求人掲示板を工場前に出して、漸く人が集まったのですが、100人採用できたと思ったら、次の月には100人辞めてしまったなんてこともあり、中々思うようにいきませんでした。また、生産品質を安定させるためには、絶えず生産現場を確認し、生産現場の仕組み、システムを常にアップデートさせて行かなければならないと考えていますが、人材が安定しないとそれも中々ままならず苦勞しました。

また、行政関連の手続きや通関手続きなどは思った以上に手間取ることも多く、現在でもその辺は苦勞している部分もあります。

一ベトナム人スタッフについてはどのように評価されますか？

弊社は、創業当時は約20名からのスタートでしたが、現在では約300名の社員が働いてくれています。基本的には皆、真面目で向上心もあり、好奇心も旺盛だと思います。メンテナンスが必要な機械があったり、作業台などの備品が壊れた時など、日本では業者に頼むようなことまで、自分たちで直してしまい驚かされることがあります。ただ、個々の人は優秀なのですが、



粉体塗装

自分が持っている知識や技術を抱え込んでしまうところがあり、その知識や技術を周囲の人間と共有したり、教えたりすることが苦手なように感じます。

一福利厚生など特に気をつけていることはありますか？

私は社員は会社の財産だと考えていますので、社員ができる限り継続して働ける環境を整えていきたいと考えています。具体的には、他社同様に毎年1回の社員旅行や、テト前の忘年会開催など社員向けのイベントは勿論行っているのですが、変わったところでは自社製品の洗車機を工場敷地内に設置して、社員が自由に自分のバイクを洗えるようにしています。ベトナム人はバイクを大切にしますので、就業時間後には、洗車機の前に行列ができていくこともあります。また、先日は、自社で製造しているホームベーカリーでパンを作って社員全員に食べてもらいました。5年以上も自分たちで作っていながらその時初めて自分たちの作った製品で焼いたパンを食べたのですが、皆非常に喜んでくれました。

それから、弊社の大きな特徴として日本での実習制度というのがあります。これは、3年を目安に真面目に働いていると評価された社員が6ヶ月間日本本社で実習を受けることができる制度です。2013年は15人がこの制度を利用して日本へ行くことができました。



品質管理チェック

この制度は一人一回に限定しているわけではありませんので、多い人だとこれまでに4回日本へ行った人もいます。

こういった取組が功を奏しているのか、弊社の場合、15年以上働いている社員が約20名いますし、創業時からこれまで一度もストライキが発生したことがありません。

一今後の展開について教えてください。

MK SEIKO (VIETNAM)はこれまで、日本本社で設計された図面に従い製品を加工したり、組立てたりするという正に工場としての役割を担ってきましたが、今後は、本社からの自立を目指し、MK SEIKO (VIETNAM)オリジナルの製品を企画から設計、製造まで行えるようになりたいと考えており、現在ベトナムでの設計部門の立上げを進めています。

また、弊社のように部品加工から塗装、樹脂成形、プレス、基板実装、組立まで一貫して行える企業はまだベトナムには少ないと思いますが、その特徴を活かして、今後は外部からの委託部品加工を積極的に受けていきたいと考えていますので、もしベトナム国内での委託加工先をお探しの企業様がございましたら、是非一度ご相談を頂ければと存じます。

一ありがとうございました。



設計室



工場外観